

会議録

案件	令和6年度第3回こどものスポーツ・文化活動等に関する協議会		
日時	令和7年3月13日（木）午前10時00～午前11時30分		
場所	教育委員会会議室		
参加者	会長	中野 貴博	中京大学スポーツ科学部 教授
	副会長	藤田 雅也	静岡県立大学短期大学部こども学科（美術教育研究室）教授
	委員	粕谷 浩二	（公財）豊田市スポーツ協会 常務理事
		藤本 聡	（公財）豊田市文化振興財団 専務理事
		加藤 矢舟	豊田文化団体協議会 会長
		佐久間政明	地域ぐるみの教育推進委員会委員長
		三浦 秀一	豊田市小中学校長会 副会長
		八木 健次	豊田市 生涯活躍部長
		中垣 秋紀	豊田市教育委員会 教育部長
	事務局	生涯活躍部	曾我史人
		教育部	熊谷明典
		スポーツ振興課	中野洋介、太田栄一郎
		学校教育課	岸本勝史
		文化振興課	相田祐里
内 容			
<p>1 会長あいさつ</p> <p>素案と書いてあるが、しっかりしたものができている。今日しっかり煮詰めて修正しなければいけないところなどを議論し、実際に動くときのバックグラウンドになるものを発信できるように議論をしていただきたい。</p>			
<p>2（1）部活動の地域移行に関する取り組み状況【報告】</p> <p>【委員】 指導基礎研修の動画について良いものが出来上がっている。委員の皆様が確認して、研修動画資料は大きく変わったものがあるか。</p> <p>【事務局】 大きく変わった箇所はなく表現や文言の修正など、微修正となっている。</p> <p>【委員】 研修についてはいろいろといいものがあるので、指導力向上研修に入るかもしれないが、今後も都度、見直して、より良いものにしていくといい。</p> <p>体制整備の来年度の専門部署「（仮）学び体験推進課」について、当初はスポーツ協会や、文化振興財団から協力をさせていただく提案だったが、具体的な人数規模や他課からのかわりなどはどうなっているか。</p> <p>【事務局】 行政職・指導主事（教員）・スポーツ協会・文化振興財団などからの職員派遣を合わせ、決定していないが7人程度を考えている。</p> <p>【委員】 専門部署はスポーツ振興課と学校教育課における部活動の地域移行に係る業務が合体するという認識でいいか。</p> <p>【事務局】 そのとおり。</p> <p>【委員】 その場合、今後の教育委員会のかかわりはどうなるか。</p> <p>【事務局】 教育委員会としても、本格的な移行まで学校管理下の部活動として、引継ぎを含め担当者を配置し、連携の体制などをつくっていく必要があると考えている。新</p>			

しい課と方向性も含めながら具体的に情報共有の方法なども考えていく。

【委員】 資料1の3令和7年度の主な取組(2)⑥の愛称について、市民から募る具体的な計画をどのように考えているか。

(3)の検索サイトについて、どのように取り入れていくのか。

【事務局】 愛称募集の時期は、なるべく早いほうがいいと考えている。具体的にプランが決定し、内容が確定したところで、こどもたちや保護者に周知し、募っていきたい。具体的には決まっていないが、時期は来年度の上半期を考えている。検索サイトについては、使用する条件や仕組みについて、上半期に考えながら、導入は下半期を考えている。

【委員】 地域指導者の2段階の指導基礎研修と指導力向上研修となっているが、指導基礎研修は映像のみの研修か。

【事務局】 そのとおり。

【委員】 教員が指導してきたことを地域の方が担う点で心配がある。直接対面で、集合研修を必須化すべきと思うがどうか。

【事務局】 令和8年夏までは教員と地域指導者が必ず一緒に指導にあたる期間を設ける。そのため、映像を見る、そして教員からの実践的な指導を引き継ぐことにより質を担保したいと考えている。令和8年の移行後は、特に新しく入ってくる指導者について、委員の言われた通り、研修について考える必要がある。

【事務局】 引継ぎの期間をしっかりと設け、教員も地域指導者が一人で指導できるよう意識して一緒に指導し、大切なことを共有していく。その際、教員も研修動画を見て同じ意識で指導していくことが大切と考えており、教員と地域指導者が共通理解をもった上で教員がこれまで培ってきた経験等を引継ぎながら、こどもへの接し方を共有し、お互いに意識をもって引継ぎを充実させていく。

【副会長】 動画は指導者のためでもあるが、指導を受けるこどもたちのためでもある。教員と地域指導者が同じ目線で理解し、指導を行うことが大切。また、地域指導者が動画を見た後にテストができれば、学校の中で、校長や顧問が指導者の理解を把握できる。移行期間においては、学校も結果を知っておくことも大切と考える。

素晴らしい動画となっているので、指導者や顧問の先生だけでなく、いずれは保護者やこどもたちが見られるようにしながら、豊田市が安全に取組を行っていることを広く配信していくことは価値がある。段階的に検討していただきたい。

【会長】 指導基礎研修の動画は、指導者登録の前や面談の前など、どの段階で見るものか。

【事務局】 指導基礎研修は登録したら見ていただくよう考えている。冊子資料のプラン23ページに示した流れで考えている。

【会長】 指導基礎研修を行うタイミングによって、負担が大きく人材が集まらないことも予想される。状況を見極めながら流れや強化する部分を検討する必要もあると思う。

【委員】 本校では地域指導者は現在、顧問と一緒に指導している。慣れてきたら地域指導

者が単独で指導するよう移行する。その後は地域指導者間で引継ぎ期間を設けることで、委員が心配される部分が少しは軽減される。

【事務局】 移行された後は学校も地域の一員としてのかかわりを持つ必要がある。移行期間に意識を共有する中で、地域指導者がメインの指導をし、学校が支える側になった時に、学校として心配などの声を聴く機会がたくさんあると思われる。学校としてどのように把握していくか、指導の改善にどうつなげていくか、これからの学校のかかわり方の中で大切になってくると考えている。

【会 長】 指導者はアルバイト感覚で指導を行う人や、指導経験が豊富な人もいる。集める段階で情報を精査していくといい。

【副会長】 資料1の市の取組状況2(2)の地域指導者の確保について、6月から1月で指導者が増えており、体制が整ったことに感銘を受けている。平日については、指導者の確保が難しいかもしれないが、こどもたちが取り組もうとしている部活動の指導者体制が整っていることは素晴らしい。

3の令和7年度の主な取組の予算確保について、当面の間運用していくために財源を検討していると思うが、これだけの額の確保が続くのか。もしくは必要があれば検討し、先々予算確保の可能性はあるのか。

(3)のこども向けサイトの設置も素晴らしい。こどもたち主体での活動の取組につながる。こどもたちにとって理解しやすい、こどもと保護者が一緒に見て理解して、こんなことやりたいなどと言えるようなものになるといい。

【事務局】 来年度の予算は2億6千万円ほどを計上している。通年を通して指導者等がすべて確保されると3億円を超えると見込んでいる。それが来年度以降続いていくため、必要な予算を要求し確保していく。合わせて企業からの寄付や国の補助金を確保していく。また、恒久的な補助金が創設されるよう国へ要望していく。

【委 員】 予算については市議会の議決を経て3月19日に正式に決定となる見込み。

【会 長】 はじめは国の補助金もたくさんあるが、ずっと続くわけではない。状況を踏まえて取り組んでほしい。

人材バンクに登録してもらうための広報的なものはどうなっているか。

【事務局】 チラシを作成し交流館等に設置をする。また、市の公式LINE等を活用し、全市的に広く広報するなど設置後のPRについても拡充していくよう考えていく。

【会 長】 他市はアルバイト的な冊子に乗せているところもある。特に最初は頑張ってもらいたい。大学で配るならチラシで全員に配ることができる。

アウトソーシングについて、主には謝金の支払い等とあるが、その部分について委託するというのでいいか。

【事務局】 謝金の支払い事務が膨大な事務量を占めている。労務管理等が得意な事業者相談し、市職員の人件費より低くなるならアウトソーシングも考えていきたい。

【会 長】 その事務は地域学校共働本部か専門部署か。

【事務局】 専門部署になる。

【会 長】 ガイドラインに入ってくると思うが、安全面やトラブルの際の手続きや相談のフローがあったほうがいい。保護者や学校も安心できると思う。

2 (2) とよた地域クラブ活動展開プランについて【協議】

【委員】 委員の皆様にご意見をいただきたい。資料2の3(4)の所属する学校に希望する種目がない場合、どの学校の活動にも参加が可能ということについて、地域でこどもを育てるという趣旨に照らし合わせると、例えば隣接する中学校で活動を行うという考えもある。一方でこどもたちの自主性や主体性を重んじて原案通り「どの中学校でも」という選択肢もあると思う。これについて考えがあれば聞かせてほしい。

【会長】 完全オープンにした場合、趣旨と少しずれる可能性があることや、極端なことを言えば人を集めてしまうようなケースがないとは言えない。実際に他のところではそういうこともある。それらを考えると、隣接地域と言う考え方もある。

【副会長】 居住エリアや安全性を考えると、近隣にしてもいいかとも思う。

【委員】 スポーツは隣接や近隣でも比較的いいと思う。文化は選択肢が非常に狭く、限られた学校でしかない活動もある。隣接ではやっていないということもあり、ある程度許容範囲を広げた方が活動の幅を広げることになる。スポーツと文化をわけて考えてもいいと思う。

「隣接」と「近隣」でも違う。通える範囲でということを考えてもいい。

【委員】 資料2の3(6)の部活動の新設について注目している。文化活動についても、今の部活動の種目にはないが、こどもたちのニーズがある活動はたくさんある。また、5(2)②のとよた地域クラブフェスタについて説明いただきたい。

【事務局】 いずれ中学生になる小学生に対して、中学生自身が種目ごとに内容を伝えるイベントで、中学校ごとの開催を考えている。

【会長】 学校区を越えた種目選択の議論に戻るが、団体スポーツは特に難しい。例えばサッカー部では、通学する中学校に設置はあるが、8人しかいないというケース。別の学校に行けば11人いるから対外試合に出られるということも在り得る。こういうケースをどうするか。種目によっては合同チームという形で参加できるということも、しっかり伝えていかなければいけない。親世代の発想からすると、数が揃わないから試合に出られないという考えになり、安易に違うチームに行こうとする反応にもつながる。

【委員】 隣接・近隣をどこまでの範囲とするかなど難しい。

【会長】 保護者の送迎の事情によっても変わってくるということもある。こども、保護者の判断だけでなく、本部も少し間に入って検討しないといけないケースも出てくると思う。

【委員】 豊田市は山間部の学校もあり、種目も限られている。配慮をしていけるといい。

【会長】 今後、ある程度の参加者数を確保するため、いくつかの地域でまとめて種目を設定していく必要があるかもしれない。

また、新種目については令和9年度になったらいろいろな声が上がると思う。昔ながらのスポーツや、個人のスポーツ、また、ストリート系の種目、オリンピックが開催されると新種目のニーズが出てくる。できるだけ早く、どういうニーズが隠れているか探っていき、情報更新していくことが大切。

【副会長】 展開プランは冊子としてつくるか。

【事務局】 製本はせず、データや印刷対応を考えている。策定次第公開する。

【会 長】 指導者として登録する方は必読ということか。

【事務局】 閲覧できるようにはしておくが、必読にはしない。指導者に理解していただきたいことは、研修の中に落とし込んである。別に示すガイドラインは必ず読んでいただく。

【委 員】 いろいろな活動があることを、こどもたちに知らせることが大切。例えばダブルダッチやフロアボールなどの活動をすることができる機会を示していくことで人数が集まり、新しく種目が立ち上がっていく。広く周知しながら進められるといい。こどもの数の問題もあるので、丁寧な議論が必要。

【委 員】 モデル校として実践し、このプランの手ごたえを感じている。先ほど、研修動画についてこれで大丈夫かという意見もあった。こどもの指導は簡単ではない。教員は問題が起これないように手を打っている。また、後のケアもしている。その技術が身に付くかというとなかなか難しい。プランが良くても実践できなければ意味がない。そういった認識を持ち、この先もしっかり進めていく必要があると思う。

研修について学校はかかわりをもたないようにしようとは思っていない。実際に地域指導者に向けて、独自に実技を伴った研修も行っている。学校で実態が違っているところでもあるため、もっと充実したものとなるようにしていく必要があると考えている。実態にもとづいて、今後も学校でかかわってこうと思っている。

仮にこのプランがうまくいかなくなるのはどういう時か考えてみると、こどもたちの活動の安全が脅かされるときだと考える。部活動コーディネーターの配置や学校施設の安全管理など、全体の安全を守るということは手を打っていく必要がある。また、教育行政計画も新しくなっていく中で、地域学校共働本部の発展とともに、エアコンや部屋の大きさ等、活動に見合った施設整備も考えていく必要がある。

今のこどもたちの学校教育を崩すようなことが入ってこないか。地域に指導者を育てる必要があり、地域に指導者を育てるような土台となる団体はあるかなど、うまくいかなくるとしたらという想定をして取り組んでいくといい。

【会 長】 動き出していくと、既存の機能をしっかりし、進める中で追加されたり、さらに充実されたりすることもたくさんある。地域の方にもこどもを育てたい・こどもにかかわりたいという気持ちがある人はいる。うまく共有していきたい。

教育関係で体育系にいる学生は、部活を教えたくて指導に携わる子も多い。しかし、徐々にこどもを見るように意識が変わってくる生徒が多い。教育現場の先生や顧問の先生に見ていただくことで、うまくいく面もあると感じている。

【事務局】 希望する種目がない場合の選択について双方あったので、事務局に一任でいいか。

【会 長】 引き続き検討を進め、また委員にも確認してほしい。

【委 員】 基本的には近いところが望ましいと思う。前林地区では、あらかじめ地域でそういう場を作っている。大人が考えて場・体制を作っていくってあげないといけない。